



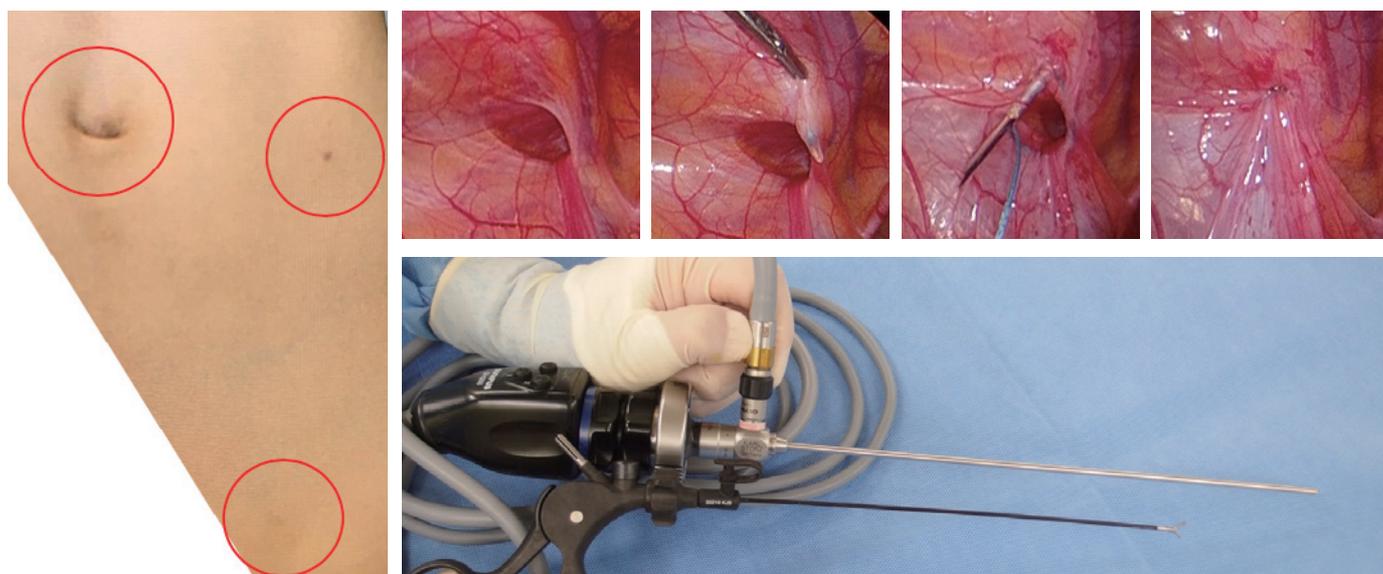
県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

小児外科

傷が目立たない^{そけい}鼠径ヘルニア手術 ～腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術～

当院の小児外科では、およそ10年前から腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術を導入しています。2019年8月末までで900症例の手術を行いました。通常よりも傷を小さくするため、3mmカメラと2mmの鉗子(マジックハンド)を使用して手術を行っています。



鼠径ヘルニアは胎児期にできる鼠径部の袋に腸や脂肪のヒダが入って鼠径部が膨れる疾患で、小児外科で行う手術の中で最も頻度が高い手術になります。

腹腔鏡手術が登場する以前の鼠径ヘルニア手術では、鼠径部を切開して手術を行うのが普通でした。当科では2007年より段階的に腹腔鏡手術への切り替えを開始し、現在ではほとんどの鼠径ヘルニア手術を腹腔鏡で行っています。腹腔鏡手術を行うことにより、より小さい、目立たない傷で手術を行うことができます。特に当院の小児外科では、腹腔鏡に3mm、操作鉗子に2mm径の極細径内視鏡装置を用いることにより、一般的な他院の小児外科よりもさらに小さい傷で手術を行うことが可能となっています。

これからもより安全で確実な手術を目指して診療を続けていきたいと思えます。

(小児外科 部長 江角 元史郎)

呼吸器
内科

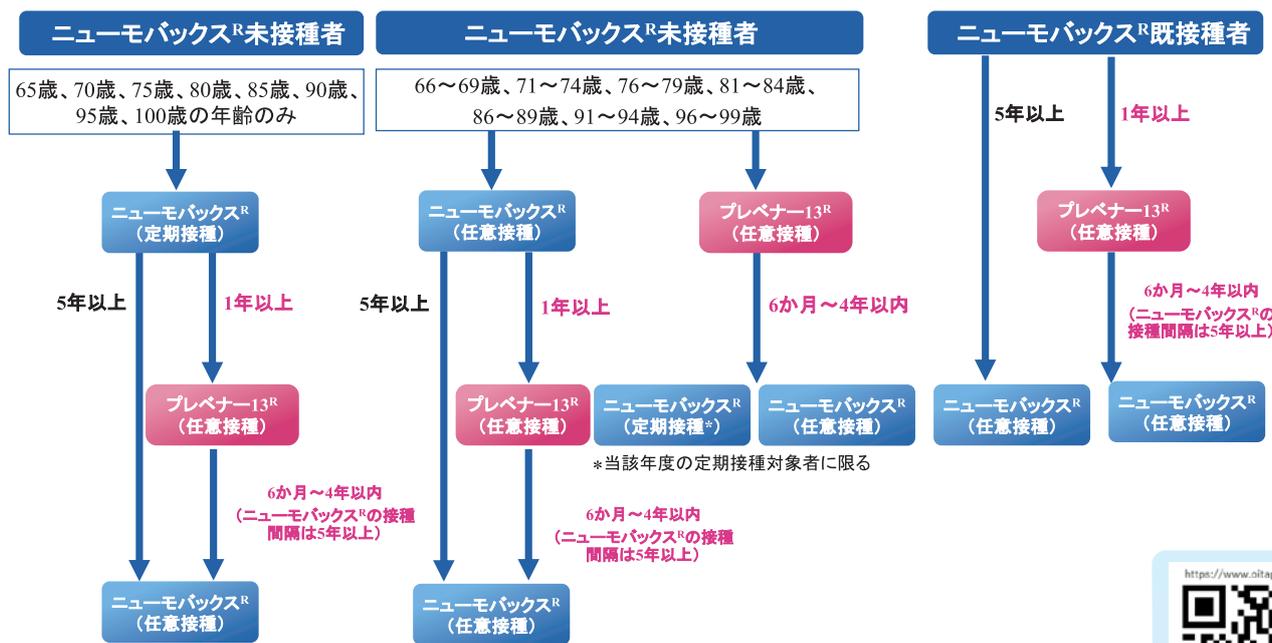
肺炎球菌ワクチンで肺炎を予防しよう!

日本では肺炎によって年間約12万人の方が亡くなり、日本人の死因第3位となっています。肺炎の原因となる微生物の第1位は肺炎球菌という細菌であり全体の約3割程度を占めています。しかし、肺炎球菌ワクチンを接種することで肺炎球菌による肺炎を予防したり、重症化を防いだりできることが報告されています。

65歳以上の方や、特定の基礎疾患を有する65歳未満の方には肺炎球菌ワクチンの接種が推奨されています。2014年10月から『ニューモバックス®』という肺炎球菌ワクチンが特定の年齢時に公費助成で接種可能となりました。2019年から2023年まで定期接種制度が継続運用されることになりましたので是非ご活用ください(『ニューモバックス®』を一度も接種していない方に限ります)。また『ニューモバックス®』は、5年以上の間隔を空ければ接種可能ですので、接種済みの方でも5年経過している場合には再接種の必要性をかかりつけの先生にご相談ください。

また、公費助成はありませんが『プレベナー13®』という別の種類の肺炎球菌ワクチンもあります。これら2種類のワクチンにはいくつかの違いがあり、両方のワクチンを接種することが推奨されています(図)。わかりにくい場合はかかりつけの医療機関にご相談いただき、ぜひ肺炎球菌ワクチン接種をご検討ください。

図 65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方
日本呼吸器学会/日本感染症学会 合同委員会



(呼吸器内科 宮崎 幸太郎)

日本呼吸器学会/日本感染症学会 合同委員会: 65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方より引用、一部改編



※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

(裏面をご覧ください)